

## 米百俵プレイス ミライエ長岡 ロゴ、マーク決まる

長岡市の中心市街地再開発事業で新設される複合施設で、市が所有する交流拠点エリア「米百俵プレイス ミライエ長岡」のロゴとシンボルマークが決まった。

学びや歴史、文化、産業、未来、交流をそれぞれ表す6色の三角形で、ミライエの頭文字「M」を表現した。ミライエ長岡は、図書館や産学官連携の拠点施設が入るほか、若者の交流スペースも備える予定。複合施設全体は第四北越銀行や市庁舎、長岡商工会議所、マンションなどが入る4棟で構成され、2025年度の全館オープンを目指す。

ロゴとシンボルマークは、施設全体の案内表示などを担当した「廣村デザイン事務所」（東京）が手掛けた。昨年12月に開かれた名称選定委員会が、同事務所による3案から一つを選び、市が最終決定した。

制作したグラフィックデザイナーの廣村正彰さんは「6色は、未来をつくり出す明るい気持ちと多様性を表現した。長岡の皆さんに親しんでもらえたらうれしい」とコメントを寄せた。

21日の記者会見で磯田達伸市長は「多様な人が交流し、新しいものが生まれる施設にしたい。多様性を表現した良いデザインだと思う」と述べた。



米百俵プレイス  
ミライエ長岡  
MIRAIE NAGAOKA

「米百俵プレイス ミライエ長岡」のシンボルマーク(上)とロゴ